

はじめに、令和6年を振り返りますと、元日発生の能登半島地震では、北陸地方を震度7の激しい揺れが襲い、私たちをお正月の団欒のひと時から現実に取り戻しました。その後も、8月には宮崎県日向灘沖地震を起因とする「南海トラフ地震臨時情報」が初めて発表されたほか、9月の奥能登豪雨では、復旧・復興途上の被災地が再び甚大な被害に見舞われました。当町においては、能登半島地震による被災地支援のため、1月から3月に渡り、埼玉県と県内自治体職員でつく



る支援チームの一員として、本町職員6名を派遣し、避難所運営、罹災証明書発行、応急給水等の業務に携わりましたが、改めて、私たちの地域にも予測困難な災害が起こり得ること、いつか来る災害に対する備えが必要であることを再認識させる出来事でした。

次に、世界に目を向けますと、不安定な世界情勢等を背景とした、エネルギー価格の高騰や物価高は、依然として私たちの日常生活に大きな影響を及ぼし、長らく続く円安傾向や、乱高下する株式市場など、社会経済の動向においても、不安が残る一年であったと感じております。一方、喜ばしい出来事として、10月、日本原水爆被害者団体協議会が、長年の核兵器廃絶を

求める運動が評価されてノーベル平和賞を受賞されました。これは、核廃絶の決意と平和の尊さが世界に認められたものとして、平和都市宣言をしている当町としても感動いたしました。

また、嬉しいニュースも数多くありました。7月から8月にフランス・パリで開催されたオリンピックにおいて、TEAM JAPANのメダル獲得数は海外開催の五輪では過去最多となり、選手たちの栄光と挫折の物語、そのパフォーマンスと感動が世界中の人々の心に届けられました。また、8月から9月に開催されたパラリンピックでは、パラスリートの無限の可能性やパラリンピックの価値が体現されました。そして、大リーガーの大谷翔平選手

は、前人未到のホームラン50本、50盗塁を達成し、世界の大舞台で活躍するその雄姿に、国内外を問わず多くの人々が称賛の声を上げました。

さらに、8月に北部九州で開催された全国高校総体（インターハイ）では、我が町の昌平高校男子サッカー部が全国制覇の偉業を成し遂げました。全国大会出場の経験は積み重ね、辿り着いたこの功績は、当町にとっても偉大な軌跡となりました。

そして、当町におけるトピックとしては、旧中央公民館とその周辺エリアに「コティすぎと」が新たな地域コミュニティの拠点としてオープンしました。多世代が憩い活用できる公共

空間として、杉戸夏まつりや古利根川流灯まつり、商工祭のほか、官・民の枠を越えた多種多様な企画と連携を図りながら、更なる魅力の創出に努めております。また、町の玄関口である東武動物公園駅東口通り線の整備や、私の公約でもある都市計画道路・下野久喜線も、関係者の皆様の御協力を賜りながら、着実に前進を続けております。

このほか、杉戸町を取り巻く情勢の中で、町民の皆様が描いた「第6次杉戸町総合振興計画」に掲げた8つの未来像の実現と、健全な行政運営を基軸としながら、各種事業を着実に迅速に執行してまいります。

令和7年度 まちづくりの方針

～新しい杉戸への挑戦～

2月10日(月)、令和7年第2回杉戸町議会定例会の冒頭、窪田町長は、令和7年度の施政方針と予算編成方針を表明しました。

施政方針とは、これからの町政運営における基本的な考え方と、主な施策を示すものです。今回の特集では、施政方針の概要と、新年度に取り組む主な施策を紹介します。

※町長が表明した施政方針を、一部要約しています。

問合せ 総合政策課 政策行革担当 内線209
財政担当 内線272



第6次杉戸町総合振興計画

まちの将来像「みんなで育てるまち すぎと ～自然とやさしさがあふれるまちへ～」の実現を図るための、8つの未来像を施策の柱にまちづくりを展開しています。

- 未来像1** まちぐるみで子育てに関わり応援できるまち
- 未来像2** 子どもたちに未来を拓く力を育むまち
- 未来像3** 生涯を通じて学び、郷土に愛着を持てるまち
- 未来像4** 自らの健康を守りながら安心して暮らせるまち
- 未来像5** 地域がつながり、安全で災害に強いまち
- 未来像6** 魅力ある産業を育み、発信できるまち
- 未来像7** 機能的で自然と調和した快適なまち
- 未来像8** 信頼される行政運営を推進するまち

▼この表紙が目印
令和3年度から令和7年度までの前期基本計画が掲載されています。ホームページにて閲覧できるほか、総合政策課窓口にて有償配布しています。(1部1,000円)

